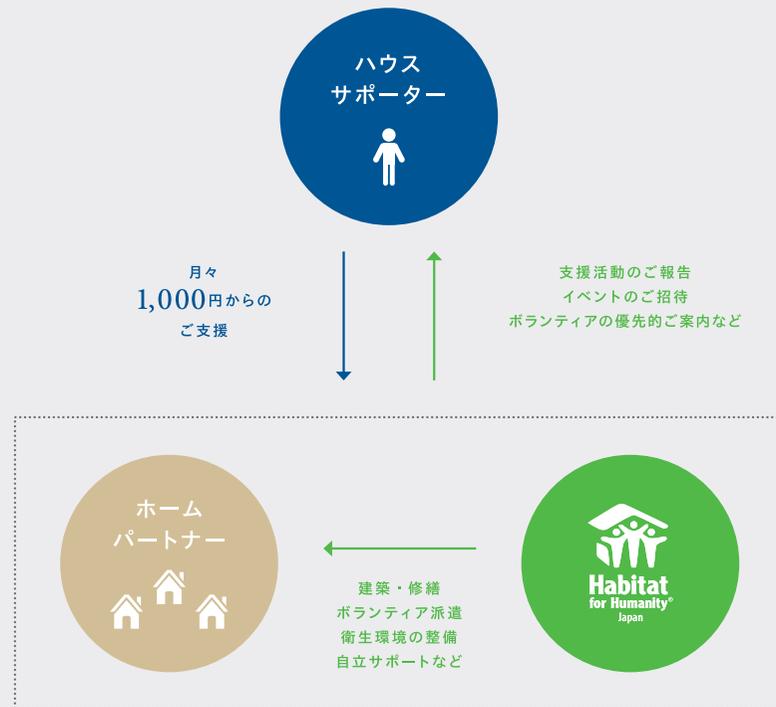


# ハウスサポーターとして ハビタット・ジャパンの活動に ご協力ください



## ハウスサポーターとは

毎月1,000円からご参加いただけるハウスサポーター(賛助会員)制度は、世界中の家族が「安心して暮らせる」ようにサポートしたい、という皆さまの思いを形にします。現場におもむいて一緒にレンガを積むことが出来なくても、毎月の支援でそっと背中を押すことはできます。皆さまのご支援は、屋根と壁が家族の健やかな暮らしに寄り添うように、沢山の人のやさやかな幸せに繋がっていきます。日々の温かいご支援は、建築資材の購入やコミュニティ支援など、持続可能な支援活動のために使わせていただきます。ハウスサポーターの皆さまには、ハビタット・ジャパンが重点的に支援するアジア太平洋各国での取り組みの報告や、支援を受けたご家族の声を定期的にお届けしています。

詳細はこちら：<http://www.habitatjp.org/contents/support/house.html>



ANNUAL REPORT 2014  
ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン



特定非営利活動法人 ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン  
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 2-7-15 近代科学社ビル 3階  
Tel : (03)-5579-2550 Fax : (03)-5579-2551  
E-mail : [info@habitatjp.org](mailto:info@habitatjp.org) URL : <http://www.habitatjp.org>

# IMPACT ASIA

全世界で不適切な環境で暮らしている人数は16億人。  
その半数は、私たちの住むアジア太平洋地域に暮らしています。



## Contents

- 02 Introduction
- 04 アジア太平洋地域の代表的なプロジェクト
- 06 住環境の改善に向けた取り組み
- 08 行政や住宅業界と連携した多角的な住居支援
- 09 サポーターやボランティアと協力した貧困住居問題の意識向上
- 10 会計報告
- 11 ご支援いただいた企業・団体の皆様

アジア太平洋地域で暮らす43億人のうち、5分の1の人々が、一日あたり1.25ドル以下で生活しています。このような貧困状況は、都市部への人口流入を加速させ、そのために一日あたり2万軒の住まいが新たに必要とされています。これまで以上に適切な住まいのニーズが高まるなか、ハビタット・フォー・ヒューマニティは、アジア太平洋地域における5ヵ年計画として、2014年より以下のような取り組みを開始しました。

### 1 住環境の改善に向けた取り組み Community Impact

貧困、災害、都市化などによって適切な住まいを得られずにいる家族のために、住居支援を行うだけでなく、彼らが暮らすコミュニティの形成と発展を促進していきます。

### 2 行政や住宅業界と連携した多角的な住居支援 Sector Impact

適切な住まいの支援には、行政との連携や、住宅業界からの協力も必要です。より多くの人が適切な住まいで自立した生活を営めるよう、様々なパートナーと協力していきます。

### 3 サポーターやボランティアと協力した貧困住居問題の意識向上 Societal Impact

貧困住居問題を解決に導くには、市民社会からの強い後押しが必要です。ハビタットのサポーターはハビタットの支援活動を支える協力者、ボランティアは建築活動を支える参加者です。彼らとともに、社会に対して貧困住居問題を強く訴え続けていきます。

## 「いのちを守る家」を築く

ハビタット・ジャパンは設立10年を終え、本年、新たな出発の年を迎えました。今日に至るまで、多くの方にご支援いただきましたことを感謝申し上げます。また、2014年はハビタット全体にとっても、80万軒の住居支援を達成した節目の年でもあります。世界中で、貧困住居に苦しむ方は16億人いると言われていています。その半数が暮らすアジア太平洋地域の問題は特に深刻であり、ハビタット・ジャパンが果たすべき役割は益々大きくなっています。また、地震、台風などの災害、復興支援といった、ハビタットだからこそ向き合うべきニーズも広がっています。「なぜ家なのか」という質問が寄せられることがよくあります。そのようなとき、「家は私たちのいのちを守るから」とお答えしています。アジアでより複雑化し、増加する住宅支援のニーズに向き合いながら、支援者、ボランティアの皆様、また行政や住宅・建設業界、企業や団体の皆さまにご協力いただきながら、ハビタット・ジャパンはこれからも人々の「いのちを守る家」を築いてまいります。



特定非営利活動法人  
ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン 理事長

後藤 光彌

# 「安心して帰る家がある。」

そんな「当たり前の幸せ」をより多くの家族に届けるべく  
アジア太平洋地域の18カ国で活動しています。

## フィリピン

The Philippines

2013年11月8日に上陸した台風30号により、1,600万人が被災し、損壊家屋数は100万戸に上りました。ハビタットは応急仮設住宅や応急修繕キットを提供し、現在も30,000世帯への支援を目指して活動を継続しているほか、学校の仮設校舎も建てています。特に甚大な被害を受けたレイテ島やセブ島では、新たな住居の建築も開始しました。ハビタットでは、自然災害に対する緊急支援のみならず、被災住居の修繕や再建を含めた中長期的な住宅支援を行っています。

## ネパール

Nepal

地元で調達できる建材を用いて建築活動を行うハビタット。ネパールでは、竹を用いた伝統的な建築技法による支援活動を行っています。安価で建築できる住居設計により、若者や女性などにも技術習得の機会を提供しています。2015年11月には、元米国大統領ジミー・カーターの呼びかけによる『カーター・ワークプロジェクト』が計画されており、2,000人ものボランティアが世界中から集結し、10万世帯のための支援を目標に、ネパールでの住居問題解決に向けた取り組みに参加する予定です。

## インドネシア

Indonesia

女性のエンパワメントを目標に掲げ、女性による積極的な支援活動の取り組みを続ける『ウーマンビルド』。インドネシアでは「Contribute to Mom (ママに捧げよう)」キャンペーンを実施しました。女性が支援活動に参加するだけでなく、キャンペーンによって建てられた家は、主に女性が家計を支えている低所得者約300世帯への支援となります。本キャンペーンは、インドネシア国内で60万世帯を支援の目標にした5カ年プロジェクトの一環として行われています。

## アジア太平洋地域

Asia Pacific

『ユースビルド』は、学生を中心とした若者によるボランティアや募金活動を通して、貧困住居問題への関心向上を目指した啓発活動をアジア太平洋地域で総合的に行う取り組みです。3年目となった2014年は、11カ国から延べ80万人以上の学生が参加しました。日本では200人以上の学生が参加し、日本中で一斉に街頭募金を行いました。また、日本中から集まった学生によるワークショップが東北で行われました。



# 東北

Tohoku

 建築・修繕支援数 <b>57</b> 軒、 <b>5</b> コミュニティ施設	 コンサルティング世帯数 <b>102</b> 世帯	 ボランティア数 <b>744</b> 人
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

震災後3年を迎えた東北では、「深める」×「広がる」支援を目指し、岩手県では『セルフビルド』支援を実施して、協力し合えば素人でもきちんとした家を建てることできるという可能性を社会に広げる活動を行いました。宮城県では、『ホームリペア』を通じ、周りからのサポートがあれば、簡単な住宅補修は素人でもできるという認識を深め、震災後の支援が届きにくかった内陸部での家屋修繕活動を行いました。



自宅を建てる佐藤さん

### ホームパートナーストーリー

更地に土台をつくることから始めた『セルフビルド』支援では、工事が進むにつれて、家が建っただけでなく、施主の佐藤さん（仮名）にも変化が見られました。当初は、ボランティアさんに挨拶する時も、恥ずかしそうにうなづくだけでしたが、次第に、自分から積極的に話しかけたり、冗談を交えながら会話している姿を見かけるようになりました。「色々な人が全国から大勢来てくれるから、オラもだいぶ人見知りか治ったな」と話してくれた佐藤さん。その門出を祝うため、ボランティアの方など50人以上が集まった完成式では、「皆さんの協力がなかったら、今日を迎えることができませんでした。本当にたくさんの人に手伝ってもらいました。家のあちこちに思い出がつまっています。ありがとうございます」と挨拶しました。

# 海外建築ボランティア

Global Village Program

 支援した国 <b>12</b> カ国	 建築支援数 <b>144</b> 軒	 ボランティア数 <b>968</b> 人
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------



タイ中部に住むブンジュアさん(写真中央)

ハビタット・ジャパンは、アジア太平洋地域で最も多くの海外住居建築ボランティアを派遣しており、その数は年々増加しています。ハビタットの中心を担う活動である住居建築活動では、「スフィア基準」（人道支援に関する国際基準）にも配慮して設計された、コア・ハウスと呼ばれる住居を建てています。人間が暮らすのに必要な最低限の空間と衛生設備を備えた住居が、ホームパートナー自身の参加と多くのボランティアの協力によって建てられています。

### ホームパートナーストーリー

タイ中部に住むブンジュアさん夫婦と3人の子どもは、5年前まで借家に住んでいました。しかし、オーナーの一方向的な意向で、突然追い出されてしまったのです。その後、なけなしの貯金で友人から土地を買い、拾い集めてきた木材やトタンで小屋を建てました。窓も扉もなく隙間だらけの壁で風雨を防げず、近所から貸りた電気の配線が濡れて、ショートや漏電の危険がありました。「毎年雨期になると子どもたちを友人に預け、夫婦2人で屋根や壁が風で飛ばされないよう一晩中押さえていました。暗闇と風雨のなかで必死に耐えているとき、子どもたちの健康や安全を守ってやれない場所で暮らすことが不安で悲しかったです。」ブンジュアさん一家は、日本からのボランティアの協力で完成した家で、新たな生活を送っています。

# コミュニティ支援

Child Respite Renovation

コミュニティも家と同様に生活を営む場所です。神奈川県大磯市にある「海に見える森」は、重い病気や障害により、普段は外出することすらままならない子供たちが生きる力を育めるよう、家族と共に滞在できるショートステイ施設です。子どもたちが安心して遊べるよう、老朽化した一部の施設を修繕しました。



## 行政との連携

住居問題は行政の理解、協力があって抜本的な解決に向かいます。宮城県美里町で行った『ホームリペア』（被災住居修繕）支援においては、地元の町議会、商工会議所などに協力を仰ぎながら、行政に対してアドボカシー（提言活動）を行い、震災以来支援の手が行き届きにくかった地震被災世帯の支援

措置等の再検討を促しました。ハビタット・ジャパンは、継続的かつ総合的な支援活動を目指しています。その一環として行うアドボカシー活動は、ホームパートナー家族の声を社会や行政に届けるという大きな役割を担っています。



## 住宅業界との連携

住居問題は一朝一夕に解決されるものではありません。他方、適切な住まいを必要とする需要は日々高まっています。そのようなニーズに応えるため、ハビタットは、住宅業界（住宅メーカー、建築、設計、建材、建築工具等）とパートナー関係を結ぶことで、ホームパートナーが購入できる

ような価格を抑えた建材を提供したり、プロによる技法や物品の支援をつなげたりしています。一人でも多くの方が適切な住まいに暮らせるよう、またそのスピードを速めるため、努力を重ねています。岩手県大船渡で実施した『セルフビルド』支援では、住宅の自力再建を

目指すホームパートナーのために断熱材や内装塗料、建築に必要な工具のご提供をいただきました。お金があれば建てられる、なければ建てられないという二者択一の構図に、様々なパートナーとの連携を通じて、自力再建という新たな可能性を生み出しています。



## サポーターやボランティアとの連携

ハビタットの住居支援活動の土台を支えているのは、一人ひとりのサポーターとボランティアの協力です。ハウスサポーター（賛助会員）をはじめとするハビタットのサポーターは、寄付者であるだけでなく、住居問題に関心をもち、その解決のために一歩を踏み出した強い味方です。また、ハビタットのボランティアは、ただ労働力を提供して活動に参加するだけではありません。参加費の一部は、ホームパートナーの自立支援のために用いられ、経済的にも精神的にも「彼らを支える大きな力となっています。今年度も、国内外の活動に1,700人以上の方がボランティアとして参加しました。

## キャンパスチャプター

ハビタット・ジャパンの活動を支える若い力が、学生支部であるキャンパスチャプターです。今年度は関東と関西以外の地域に飛躍的に活動が拡大し、北海道、中国、四国の大学にも新たなキャンパスチャプターが誕生しました。27の大学キャンパスで活動するキャンパスチャプターのメンバーは1,500人を超えます。メンバーが他大学の学生にも住居問題を訴えかけるなど、彼らのネットワークからキャンパスチャプターの輪が広がっています。



今年度、ハビタット・フォー・ヒューマニティ全体では  
2億7,000万ドル(約320億円)ものご支援をいただきました。  
その中には、物品の寄付や団体からの助成金なども含まれます。

(特活)ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン  
決算の概要

(単位:円)

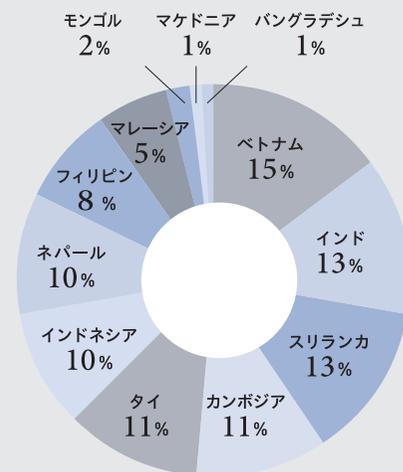
活動計算書 (2013年7月1日～2014年6月30日)	
経常収益	
受取会費	1,812,147
受取寄付金	100,548,247
受取助成金等	25,917,236
事業収益	789,104
その他収益	210,995
経常収益計	129,277,729
経常費用	
事業費	179,711,555
管理費	18,011,317
経常費用計	197,722,872
当期経常増減額	△68,445,143
経常外費用	20,856,089
税引前当期正味財産増減額	△89,301,232

貸借対照表 (2014年6月30日現在)	
資産の部	
流動資産	24,070,667
固定資産	4,760,943
資産合計	28,831,610
負債の部	
流動負債	18,818,151
固定負債	0
負債合計	18,818,151
正味財産の部	
前期繰越正味財産	99,314,691
当期正味財産減少額	89,301,232
正味財産	10,013,459
負債及び正味財産合計	28,831,610

日本から海外への  
支援

海外支援合計  
(2013年7月～2014年6月)

31万ドル (約3,600万円)



THANK YOU

ご支援をいただいた企業・団体の皆さま



Marriot International

日本ペイント株式会社

けせんありがとうプロジェクト

デルタ航空

JANIC

カトリックイエズス会

シュプリンガー・ジャパン株式会社

このほかにも、多くの企業・団体・個人の皆さまから  
ご支援をいただきました。心より御礼申し上げます。

※ 本報告書の対象期間(2013年7月1日～2014年6月30日)に受領したご寄付を対象に記載しています。